

## 気付きの質を高め、深い学びを実現する生活科学習の在り方

### 1. 設定理由

本校は、全校児童数45人の小規模校である。児童は明るく素直だが、児童数が少ないために、考え方、表現の仕方、交流する友だちなどが限られてしまうことが多く、考えを広げ深めることが難しいという課題がある。そこで、本校は「考える」ということを中心課題としてとりこんでいくこととした。

今回の学習指導要領の改訂において、総合的な学習の時間が改めて教育課程の中核に位置づけられるべきと考え、児童が生活の中で様々なことに気づき、課題を見つけ、探究し続けていく力は、生活科から総合的な学習の時間へと連続し、発展していくと捉えた。1・2学年のうちに気付きの質を高め、深い学びを実現することを通して、自分の生活を豊かにしていく経験を積み重ねていくことは、総合的な学習の時間の大事な学習基盤を担っていると考える。このことから、「気付きの質を高め、深い学びを実現する生活科学習の在り方」の実践を明らかにすることをめざし、本主題を設定した。

### 2. 研究仮説

- (1) 気付きを整理し、これをもとに考える際の支援を工夫すれば、気付きの質が高まり、深い学びにつながるだろう。
- (2) 探究心をもって、考えることを続けられる支援を工夫すれば、自ら思考することができ、深い学びにつながるだろう。

### 3. 研究内容

第1学年「みんなにささえられているんだね」の実践

- ・個々の気付きを整理したり、さらなる気付きを促したりするための思考ツールの活用。
- ・児童が考えるための教員の言葉かけの工夫。
- ・児童の思いや気付きをもとにした活動計画。

### 4. 結 論

- 思考ツールで整理することは、低学年の児童も視覚的に分かりやすくなり有効であった。
- 児童の思いや気付き、疑問に沿った活動を取り入れたことで、意欲が持続していた。
- 本校における「気付きの質の高まり」を定めたことで、ねらいを明確にした声かけや発問ができるようになった。
- 理由を考えたり、比較して違いを考えたりすることを、教員の発問で意図的に取り入れていくことで、実感を伴って気付きを捉えることができるようになり、深い学びにつながった。

# I 研究主題及びその設定理由

気付きの質を高め、深い学びを実現する生活科学習の在り方

～設定理由～

## (1) 学習指導要領から

- ・『児童の主体的・対話的で深い学びの実現』を図るようにすること」とある。

生活科における「深い学び」・・・気付きの質の高まり

## (2) 学校教育目標とこの育成をめざすための資質・能力から

《学校教育目標》  
ふるさとを愛し 共に未来を拓く 児童の育成  
《3つの資質》  
自律性・協働性・創造性  
《4つの能力》  
見出す力・結ぶ力・明らかにする力・やり抜く力

学習指導要領の資質・能力を踏まえて、本校の目指す資質・能力との関連を次のように捉え、児童を育成していきたいと考えている。

自律性・・・自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活する態度を育む。  
(学びに向かう力、人間性)  
見出す力・・・探求心をもち続け、様々な気付きや次なる課題を見出す力を育む。  
(思考力、判断力、表現力) (学びに向かう力、人間性)  
結ぶ力・・・自分と身近な人々、及び自然との関わりに気付き、それらに愛着をもって生活しようとする態度を育む。  
(知識及び技能) (学びに向かう力、人間性)  
明らかにする力・・・活動や体験したことを振り返り、表現し、気付きを明らかにしていく力を育む。  
(思考力、判断力、表現力) (学びに向かう力、人間性)

このような資質・能力を育てることを意識して生活科の授業を実践していくならば、自ずと「気付きの質を高め、深い学びの実現」をめざすことにつながると捉えた。

## (3) 本校における研究の経緯及び方針から

30年度 「生き生きと表現する児童の育成」 → 令和元年

◎気付きの量の増加 ◎表現することへの意欲向上 → ・気付きの質の高まり

《総合的な学習の時間》 資質・能力：自己の生き方を考えていく力

↑  
【両学習に共通する力】  
○気付く力 ○課題を見出す力 ○探究する力

《生活科》 資質・能力：自立し生活を豊かにしていく力

## II 研究仮説

仮説①

気付きを整理し、これをもとに考える際の支援を工夫すれば、気付きの質が高まり、深い学びにつながるだろう。

《具体的な工夫について》

- 場の設定の工夫・・・ミニカードの活用、ペアやグループなどの学習形態
- 思考ツールの活用の工夫・・・考える技法と対応した思考ツールの活用、板書で可視化
- 振り返りの手立て・・・言葉での表現、黒板や掲示物に学びの足跡

仮説②

探究心を持って、考えることを続けられる支援を工夫すれば、自ら思考することができ、深い学びにつながるだろう。

《具体的な工夫について》

- 自分との関わりを深める工夫・・・児童の思いや願いの収集、見極め
- 思考ツールの活用の工夫・・・自ら課題設定できるきっかけ作り
- 考えるための教員の言葉かけの工夫・・・教員の意図的で効果的な声掛け

「友だちと同じところはどうだろう」「友だちとどこが違うかな。」(見付ける・比べる)  
「どうしてこうなるのかな。」「どうやってやったの。」(原因、理由を考える)  
「もっと～するためにはどうしたらいいのだろう。」(試す 工夫する)  
「他にどんなことができるかな」(工夫する)  
「本当に～でいいのかな。」(再思考する 試す)  
「～したらどうなるだろう。」「～してみたらどう。」(見通す 試す 工夫する)

### Ⅲ 実践例

・ 単元名 みんななかよし

#### (1) 単元について

本単元では、子どもが学校の施設を利用したり、先生や友だち、学校生活を支えている人々との関わりを深めたりしながら、学校生活を豊かに広げ、楽しく安心して遊びや生活ができるようにすることをめざしている。学校探検を通して関わった人々やそこで気付いたことをもとに、実際に学校で働いている職員や地域の方々のお話を聞き、思ったことや考えたことを伝え合いながら、整理・分析する中で、自分たちが学校生活を送っていく上で、支えてくれている人がたくさんいるということに気づかせることがねらいである。それによって、子どもたちが小学校生活に安心感と大きな希望を持つことができるようにしていきたいと考える。

#### (2) 児童の実態

本校は全校児童が45人と少人数であることから、上級生が下級生と一緒に遊んだり、お世話をしたりしてくれることがごく自然に行われている。本学級の児童も、休み時間になると上級生と一緒にブランコで遊んだり、教室で歌を歌ったりして過ごしている。そのため、毎日一緒に過ごしている友だちや上級生に対して、お世話になっているという思いを持っていることが分かった。しかし、その他の学校生活で関わる人々に関しては、まだあまり認識が持っていない状態であった。子どもたちが過ごす学校にある楽しいものから、そこにいる人々の良さへと認識を広げていき、多くの人とのつながりを実感できるようにしていくことが必要である。

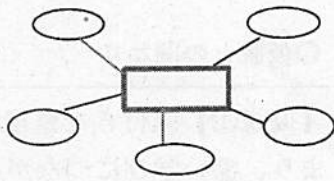
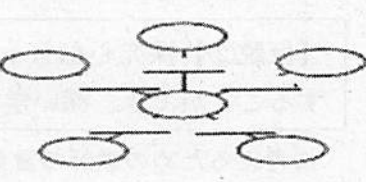
#### (3) 単元の目標

- ・ 友だちや先生、学校を支える人々に親しみ、楽しく学校生活を送ることができる。  
(生活への関心・意欲・態度)
- ・ 学校の施設の利用および学校生活を支えている人々や友だちとの関わりなどについて、自分なりに考えたり、表現したりする。  
(活動や体験についての思考・表現)
- ・ 自分たちの学校生活を支えてくれている人の存在と自分との関わりに気付くことができる。  
(身近な環境や自分についての気付き)

#### (4) 指導計画

単元	「みんな なかよし」	
小単元	「ともだちたくさん つくろう」	2時間
小単元	「わたしのがっこう どんどころ」	9時間

時	○学習内容と活動 ★仮説との関連	評価の観点
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">がっこうにはどんなものがあるんだろう。</div> ○2年生に案内してもらいながら、学校探検を行う。	・ 時間や約束を守って、楽しく探検しようとしている。 (関心・意欲・態度)

2	<p>★児童は「豊住小探検隊」となり、地図を持っていろいろなものを見つけてくるというめあてをもたせ、意欲を高めさせる。(仮説②)</p> <p>○「探検地図」に、行った場所にはシールを貼り、見つけたものの絵を描く。</p> <p>○見つけてきたもの、もっと知りたいことを話し合う。</p> <p>★拡大した地図に、児童の見つけてきたものを記入しながらまとめ、掲示物に児童の気付きが残るようにする。(仮説①)</p>	<p>・学校探検で見つけてきたものを自分なりの方法で表現している。(思考・表現)</p>
2	<p>がっこうのことをもっとよくしよう。</p> <p>○1回目の探検でわからなかったところ、もっと知りたいことをもとに、1年生のみで探検を行う。</p> <p>★「これはなにかな。」(見つける)「～してみたらどうだろう。」(試す)など、新たな発見ができるような声掛けをする。(仮説②)</p> <p>○見つけてきたことを発表し合う。</p> <p>○見つけたものを絵と言葉で表現し、探検かるたを作る。</p>	<p>・自分なりのめあてを持って探検を行おうとしている。(関心・意欲・態度)</p> <p>・学校の施設の様子とその役割に気付いている。(気付き)</p>
5 (本時8/9)	<p>どんなことをしてもらっているのかな。</p> <p>○楽しく過ごしている学校生活で、人にしてもらっていることを想起する。</p> <p>★イメージマップを使い、思いついたことを書きとめ、広げていけるようにする。(仮説①)</p> <p>○イメージマップを見て、思ったことや気付いたことを話し合う。</p> <p>★「本当に～でいいのかな。」(再試行する)や「比べてどう思うかな。」(比較する)など、教員が意図的に言葉かけをし、児童に探究心をもたせる。(仮説②)</p> <p>○先生方との関わりについて考える。</p> <p>★付箋に書くことで、書くことが難しい児童も抵抗が少なくなる。また、重ねたりはがしたりすることができるので、意見を整理しやすい。(仮説①)</p> <p>○先生方にしてもらっていることを発表し合い、共有する。</p> <p>★先生方にしてもらっていることから、自分との関わりをコンセプトマップにまとめながら考える。(仮説①)</p> <p>★新たに出てきた疑問点を次の活動につなげる。(仮説②)</p>	<p>・学校生活でお世話になっている先生方と自分との関わりを考えようとしている。(思考・表現)</p> <p>※イメージマップ(広げる)</p>  <p>※付箋紙</p> <p>※コンセプトマップ(関連付ける、構造化する)</p> 

<p>○疑問に思ったことをもとに、グループごとにインタビューに行く。</p> <p>○インタビューをしてわかったことを発表し合う。</p> <p>★意見を伝えやすいように円を作って話し合う。</p> <p>○先生方と自分たちの関係を考える。</p> <p>★コンセプトマップにまとめ、線のつながりと関係を確認させる。(仮説①)</p> <p>○先生方に手紙を書く</p> <p>○学校以外の先生方がなぜ学校に来てくれているのかを話し合う。</p> <p>○こめっこクラブ(放課後子ども教室)、読み聞かせボランティアの方々の話を聞く。</p>	<p>・先生方に進んでインタビューをしている。 (関心・意欲・態度)</p> <p>・相手に合わせた言葉遣いで、聞きたいことを伝えている。 (思考・表現)</p> <p>・学校内にいる先生方が自分たちの学校生活を支えてくれていることに気付いている。 (気付き)</p> <p>・地域の方々と自分たちの関係を考えようとしている。 (思考・表現)</p> <p>・自分たちの学校生活が、地域の方々にも支えられていることに気付いている。 (気付き)</p>
--	---

(5) 本時の指導

○本時の目標

- ・学校生活でお世話になっている先生方と自分との関わりを考えようとする。  
(活動や体験についての思考・表現)
- ・学校内にいる先生方が自分たちの学校生活を支えてくれていることに気付くことができる。  
(身近な環境や自分についての気付き)

○仮説との関わり

【仮説①】気付きを整理し、それをもとに考える際の支援を工夫すれば、気付きの質が高まり、深い学びにつながるだろう。

《思考ツールの活用の工夫》

児童が課題を見つけたり、整理したりする際には、どのように考えればよいか分かり、考えやすくするために思考ツールを活用していく。今回は自分を中心に置き、人とのつながりや関係を捉えやすくするために、コンセプトマップを使うこととする。お世話になったり、関わりがあったりする先生方と自分を線で結んでいく。自分の課題を見つけ、活動のきっかけとなり、さらに活動で気付いたことが整理されれば、気付きの質が高まり深い学びへとつながると考える。

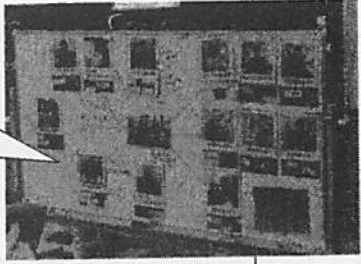
【仮説②】探究心をもって、考えることを続けられるような支援を工夫すれば、自ら思考することができ、深い学びにつながるだろう。

《考えるための教師の言葉かけの工夫》

教員が意図的に、児童の活動の中に自ら考えたり、今までの気付きが結びつけられたりするような言葉や発問を投げかけていく。「どうしてなのかな。」「友だちとちがうところはどこかな。」

などと、比較したり今までのことを関連づけたりして考えられるような声かけをし、児童の知的  
好奇心や探究心を刺激すれば、自ら思考し、深い学びへとつながっていくだろう。

○本時の展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 (○) 評価 (◎) 仮説との関連★	資料
3	<p>1 前回までの振り返りと、本時の学習のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンセプトマップで、つながっている先生方を確認する。</li> <li>・前時のインタビューの質問内容を確認する。</li> <li>・本時のめあてを確認する。</li> </ul>	<p>○学習の見通しがもてるようにこれまでの学習も振り返るようにする。</p> <p>★今までの児童の気づきや学習の流れが視覚的にわかるように、コンセプトマップを見せる。(仮説①)</p>	<p>前時までの掲示物</p> <p>写真 コンセプトマップ</p>
1 2	<p>2 インタビューをして聞いてきたことを発表し、つながり確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方がしてくれていることとその理由でわかったことを発表し、共有する。</li> </ul> <p>T: 「どうして内山先生はお花を植えてくれているんだろう。お花が好きだから？」</p> <p>C: 「ちがうよ！」</p> <p>C: 「学校をきれいにするためだよ。」</p> <p>C: 「学校に来るのが嬉しくなる。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方がしてくれていることを、自分たちとの関わりを考え、言葉で定義づけながら線をつなぎ、コンセプトマップを作り上げていく。</li> </ul>	<p>○お互いに話しやすい雰囲気を作るために、円で伝え合う。</p> <p>○先生方の仕事の様子がイメージしやすいように、先生方の写真を大型テレビで映しておく。</p> <p>★どうしてその仕事をしてくれているのかを考えるような投げかけや発問をする。(仮説②)</p> <p>逆説的な発問をすることにより、児童は自分の聞いてきたことや見てきたことを関連づけて理由を考えるようになった。【気づきの高まり】</p> <p>★1年生とつながっている線が、支えてもらっていることだということを押さえながらまとめる。(仮説①)</p>	<p>大型テレビ</p>
	<p>どんなことをしてもらっているのかな。</p> <p>・担任…「勉強を教えてくれる」</p> <p>・養護教諭…「助けてくれる」</p> <p>・用務員・図書館司書…「学校を楽しくしてくれる」など</p>		
7	<p>3 完成したコンセプトマップを見ながら、先生方と自分との関係を考える。</p>	<p>○自分たちが、どの先生方とも線とつながっていることに着目させる。</p> <p>◎学校生活でお世話になっている先生方と</p>	

「全部の先生方と線でつながったよ。」

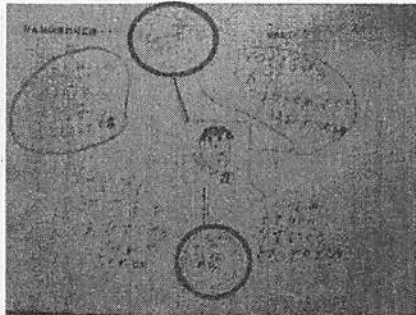
「いろんなことをしてもらっているんだね。」

T: 「初めは神崎先生と教頭先生だけしか名前が出てこなかったけど、今はどうかかな？」

C: 「〇〇先生のこと書くよ。」

C: 「ぼく、こんなに丸が増えたよ。」

・以前行ったイメージマップに、改めてお世話になっていると実感できた先生方を赤で付け足す。



- 1 5 4 先生方に手紙を書く。  
「先生がいないとき、2年生の公美先生が音楽とかを教えてくれる。」  
「いつもお花を作ってくれてありがとうございます。」  
「けがを治してくれる。飯田先生、いつもありがとうございます。」

以前よりも名前が上がる教員が増えた。また「いつも」という言葉から、日常的にいろいろなことをしてもらっていたことに気付き、自分自身との関わりが理解できた。【気づきの高まり】

- 5 5 手紙の内容を共有する。  
3 6 次時の見通しを持たせる。  
・ボランティアでお世話になっている地域の方々とのつながりを考えることを伝えておく。

自分との関わりを考えようとしている。

(思考・表現)

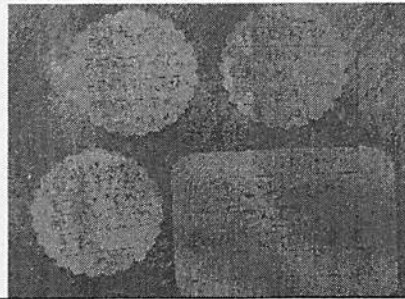
★以前行ったイメージマップと比較させ、よりたくさんの人にお世話になっていることに気付いた自分に気付かせるようにする。(仮説②)

比較をさせることで、以前の自分よりもたくさん気付くことができたことを実感できるようになった。【気づきの高まり】

★全体で共有したことを個に返し、考える時間を確保する。(仮説①)

◎学校内にいる先生方が自分たちの学校生活を支えてくれていることに気付いている。(気づき)

◎手紙の大きさを2種類用意し、文字の大きさや書くことのできる分量で無理なく選べるようにする。

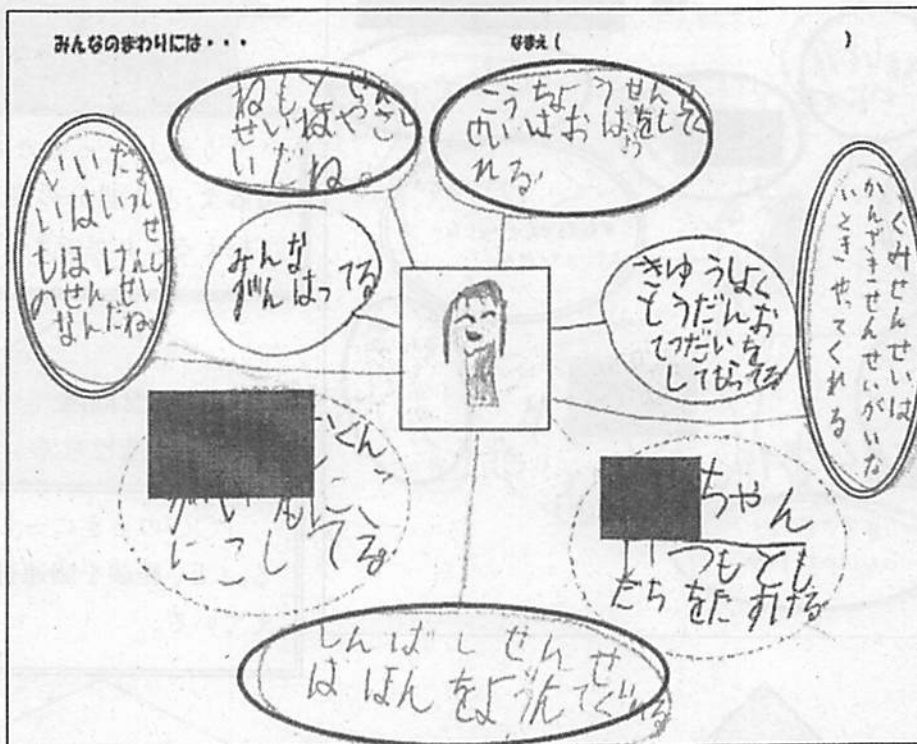


◎その場にいる教員には直接伝え、教員からも気持ちを伝えてもらえるようにする。

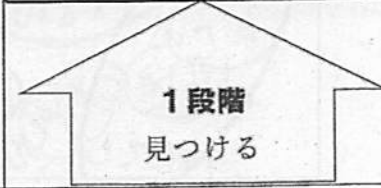


(6) 児童の変容

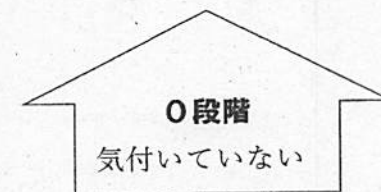
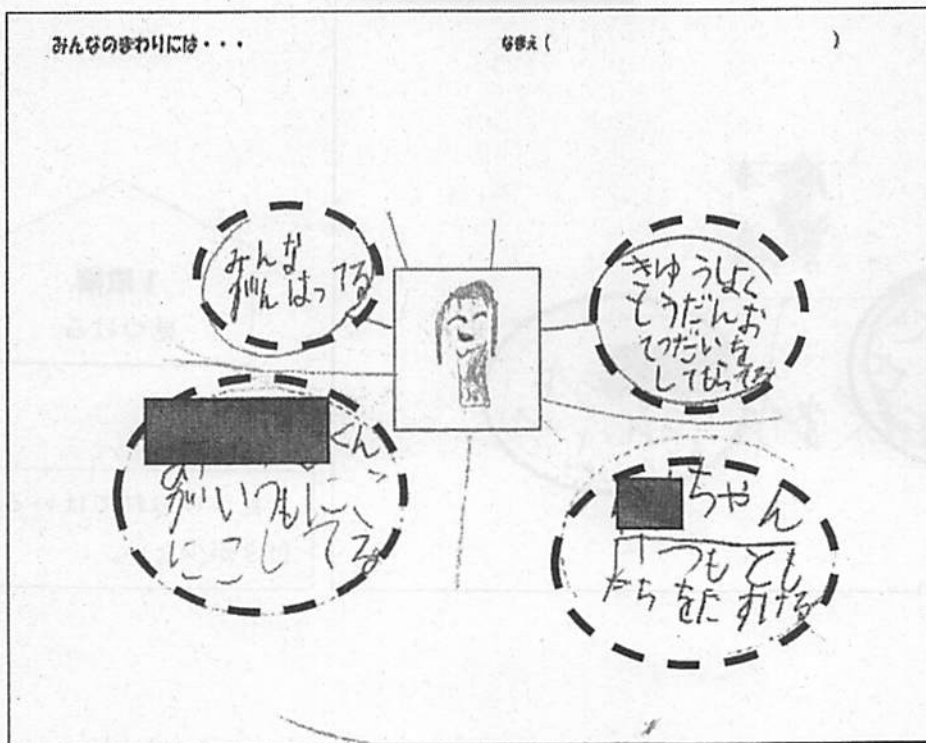
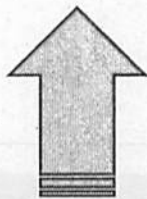
【抽出児童 A】



「〇〇のときに～して  
くれる。」や「いつも保健  
の先生なんだ」と、自分  
の見たことや経験したこ  
とを関連付けて考えてい  
る。

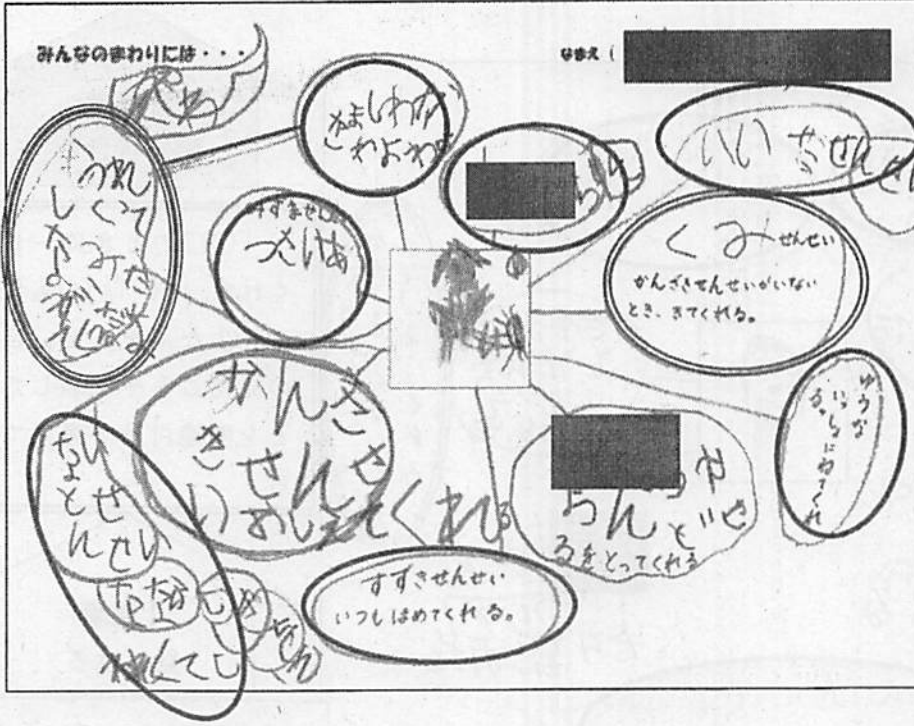


お世話になっていること  
を見つけていることができ  
ている。



友だちのいいところは見  
つけられているが、自分  
との関わりでは捉えられて  
いない。

【抽出児童 B】

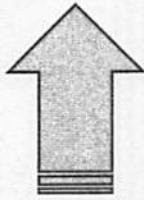


**3段階**  
関連付ける

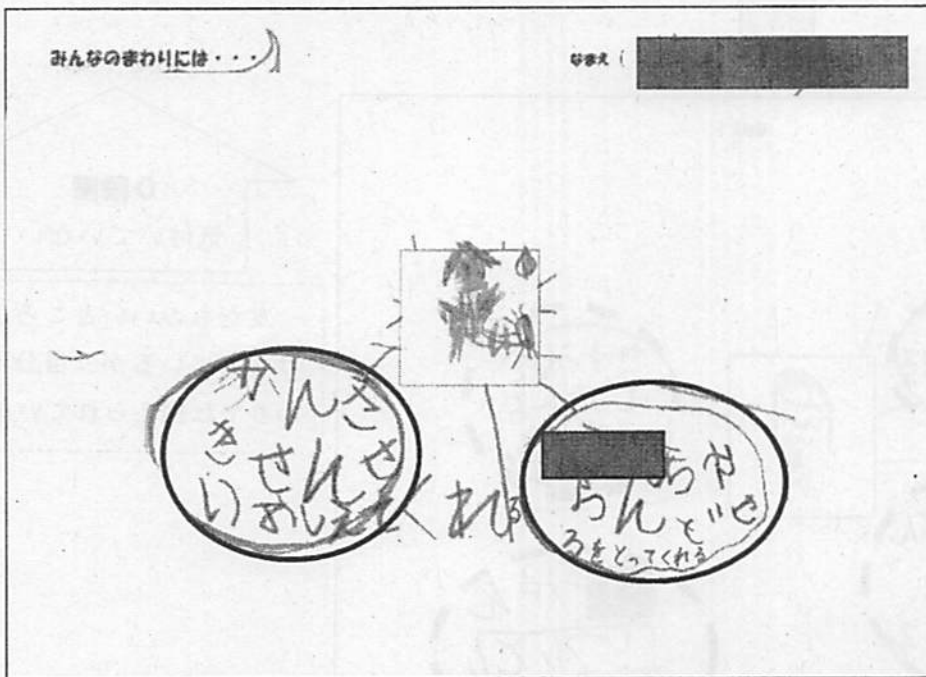
「うれしくてなみだができるよ。」と自分の実感として捉えることができる。

**2段階**  
関連付ける

「〇〇のときに～してくれる。」と、経験を関連付けて考えている。



**気付きの量の増加**



**1段階**  
見つける

見つけられてはいるが、気付きが少ない。

## (7) 考察

【仮説①】 気付きを整理し、それをもとに考える際の支援を工夫すれば、気付きの質が高まり、深い学びにつながるだろう。

### 《場の設定の工夫》

- 児童の学習の足跡や気付きが残る掲示物を作成し、掲示しておくことで、日常でふとしたときに児童が目にし、話題に出してそこから対話が生まれていた。
- 円を作り、児童どうしが顔を見ながら自由に話すことのできる隊形にしたことで、児童の対話が活発になった。
- ▲今回の単元では、グループ単位で活動することが多く、グループでの交流→全体での共有としていったが、入学したばかりの1年生は個の思いが強く、他者と気付きを共有しながら高めていくことに課題があった。

発達段階と児童の実態に応じて、学習形態の工夫が必要。「スタートカリキュラム」の視点での指導・手立てがあるとよいだろう。

- ・親しい友だちとの人間関係を軸に、活動・交流を広げていけるように配慮する。
- ・話の聞き方・伝え方は国語科を中心とし、言葉による伝え合いが豊かになるよう合科的・関連的な指導を進める。
- ・探検や活動の様子を想起しやすくしたり、友だちに伝える際の手助けとなったりするように、写真を撮っておき活用する。

### 《思考ツールの活用の工夫》

- コンセプトマップは、線でつながっていくことで自分との結びつきを視覚的に捉えるには有効であった。
- 児童がどのような人と関わっているかを考えるための手段として、イメージマップを使用した。1年生にも使いやすく、視覚的にもわかりやすい思考ツールだと感じた。

【仮説②】 探究心をもって、考えることを続けられるような支援を工夫すれば、自ら思考することができ、深い学びにつながるだろう。

### 《自分との関わりを深める工夫》

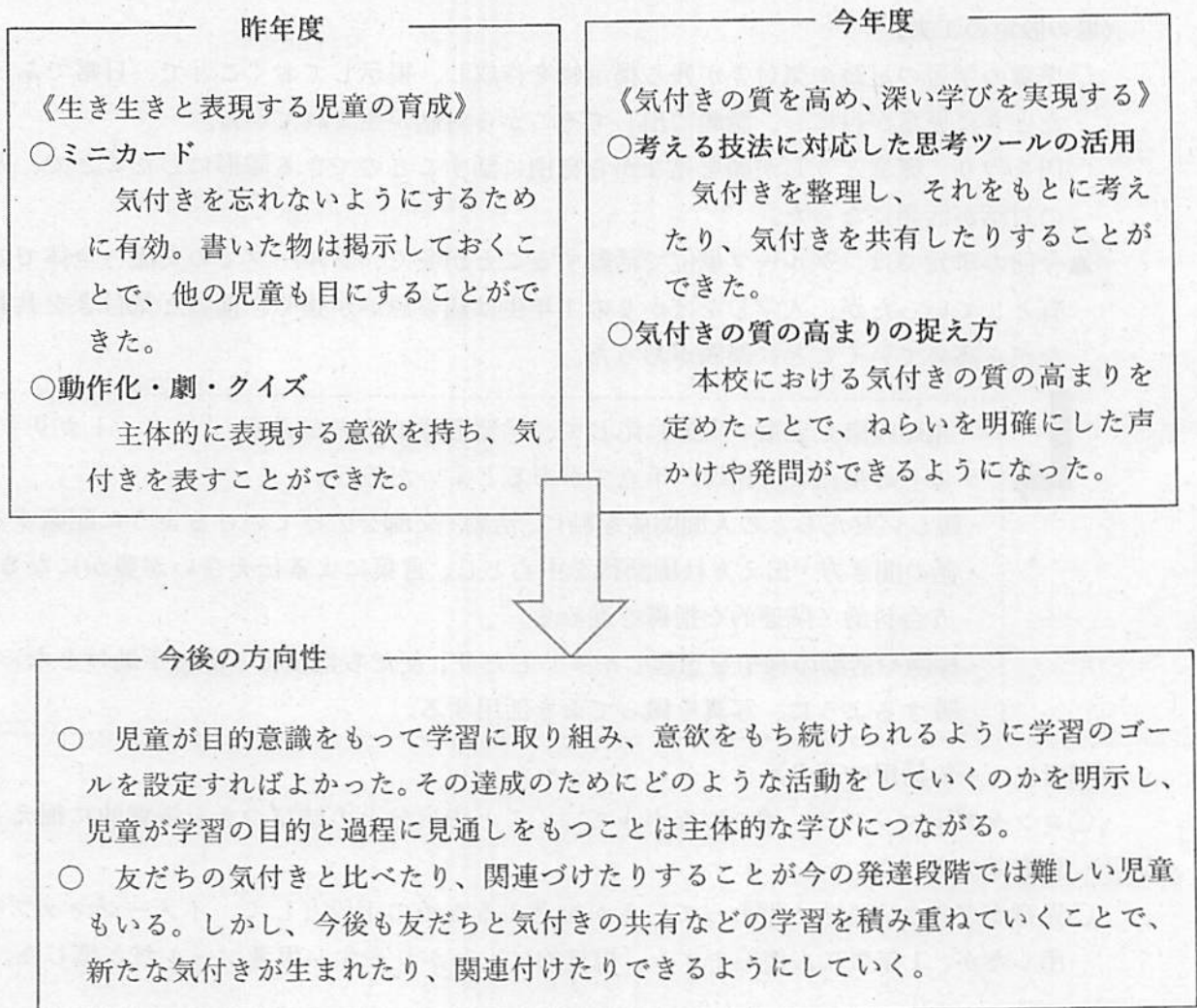
- 日常生活の中でしてもらっているが、自分との関わりとして気付いていなかった無自覚なもの（例えば、「掃除中の見回り」「廊下でのあいさつ」「プールの管理」など）を写真で示したことで、自覚された気付きへと高めることができた。
- 児童の思いや疑問に沿った活動を取り入れたことで、意欲が持続していた。

### 《考えるための教員の言葉かけの工夫》

- 理由を考えたり、比較して違いを考えたりすることを、教員の発問で意図的に取り入れていくことで、児童は自分の経験や友だちの意見を関連させながら、実感を伴って気付きを捉えることができるようになった。

#### IV 研究のまとめ

本校では昨年度より生活科を研究科目として、授業実践や研修に取り組んできた。ここで2年間の成果や課題、今後の方向性について考える。



# 資料編

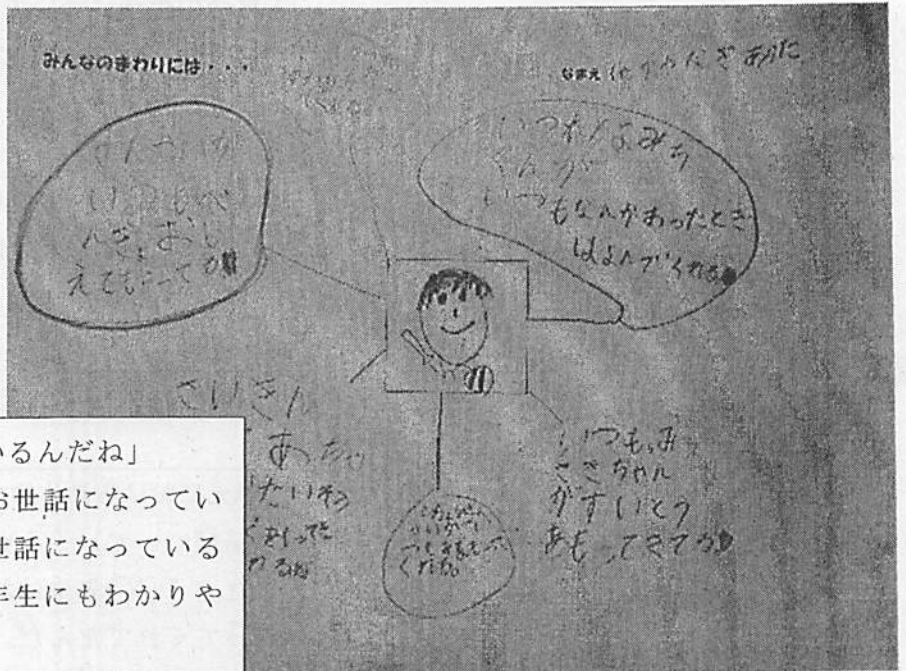
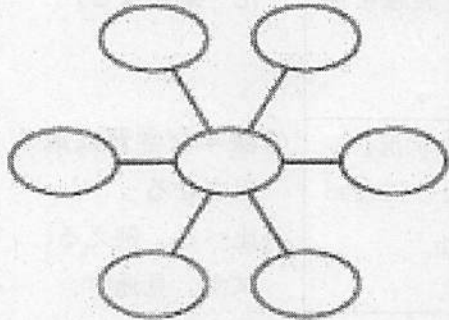
「気づきの質の高まり」の捉え方

気づきの質（段階）		児童の状況	教員の手立て
3	自分自身へ気づき	自分の成長を感じる 自分の生活について考える 自分の気づきとして実感を伴って捉える	○振り返らせる (言葉・絵・動作化・劇化など)
【「みんなにささえられているんだね」の単元における具体的な状況】 「〇〇先生が教えてくれたから、私はこんなことができるようになったよ。」「〇〇先生に会ったら『ありがとう』と言いたいな。」			
2	一つ一つの気づきから関連された気づき	原因・理由・関連性を考える	○興味をもたせる (直接体験、友達の気づきを知る、興味を持たせるための声かけなど)
【「みんなにささえられているんだね」の単元における具体的な状況】 (友達の気づきと今までの自分の経験が結びついて)「そういえば〇〇先生は私のことも優しく手当てしてくれた。」「〇〇先生はお花の世話をしてくれてたけど、みんなのためにやってくれてたんだ。」			
1	無自覚なものから自覚された気づき	見つける	
【「みんなにささえられているんだね」の単元における具体的な状況】 「〇〇先生は優しく声をかけてくれる。」「〇〇先生は勉強を教えてくれる。」			
0	無自覚	気付いていない	
【「みんなにささえられているんだね」の単元における具体的な状況】 「自分はお世話になっていない。」			

## 仮説①の手立て《思考ツールの活用の工夫》

### ○イメージマップ【広げる、関連付ける】

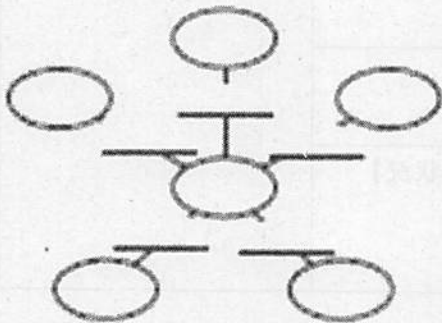
中心においた事項から思いつくこと、連想することをたくさん書きだす。



1年生「みんなにささえられているんだね」  
学校生活では、どんな方々にお世話になっているのかを考える際の導入で、お世話になっている人を思い出す際に使用した。1年生にもわかりやすく、扱いやすかった。

### ○コンセプトマップ【関連付ける】

複数の「ことがら」の関係や関連についての考えを書き出し、全体の構造についての考えを創り出すことにつなげる。



1年生「みんなにささえられているんだね」  
自分との関係を線で結び、線上に言葉でまとめていく。自分自身との結びつきを視覚的に捉えることに有効であった。

※今回の実践以外にも、思考ツールを用いて学習を行い、考える際の手立てとして、次項で紹介する。

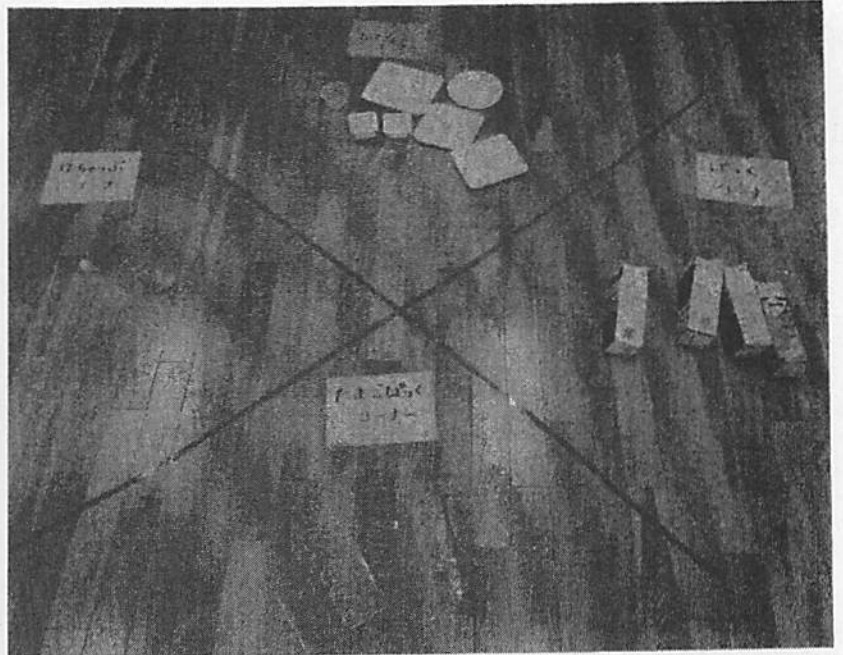
○Y, X, W チャート【分類する, 多面的にみる】

Yは3つ, Xは4つ, Wは5つの視点で分類でき, 多面的な見方ができる。



1年生「なつとなかよし」

水遊びに使う道具を, Xチャートで分類する。どんな道具があるかがはっきりするため, どんなものを使って作るかが考えやすくなった。

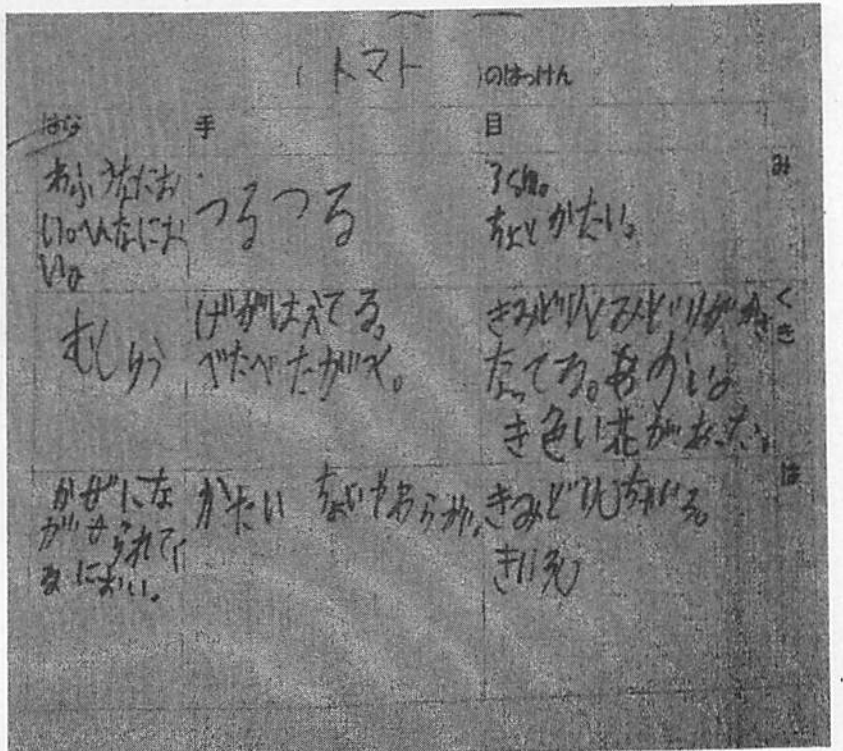


○マトリックス【分類する, 整理する, 多面的にみる】

資料を分類整理し, 表やグラフを用いてわかりやすく表す。


2年生「やさいをそだてよう」

マトリックスを使って, 野菜の観察を行う。観察する視点が決まってくることで, 多面的で, 具体的に観察することができた。





○ミニカード【分類する，多面的にみる】

1年生「あきとなかよし」  
気付いたことを色分けされたミニカードに記録し、「視覚」「嗅覚」「聴覚」「触覚」で分類していく。多面的に秋を捉えることができるようになった。

